

# 大／阪／の／建／築／ま／ち／あ／る／き —— 「東大阪」

すみだだんじり  
角田地車



地車小屋前にて保護網をはずした全影



11町連合曳き（加納地区）にて遣り回し



平成14年「隆匠」にて大修理



岸極

所在地： 東大阪市角田（すみだ）「角田神社」  
最寄駅： 近鉄東大阪線 吉田駅下車徒歩10分  
見学： 10月上旬  
10月16日角田だんじり祭り  
参考資料・協力：角田地車保存会

今回は建築のみどころとしてだんじりをとりあげた。地車はその構造と外観から大きく「上地車」（かみだんじり）と「下地車」（しもだんじり）という呼び方で分けられている。上地車には住吉型をはじめ数種類の型があるのに対し、下地車は岸和田型一つのみを指す。

角田地区は、江戸末期の安政3年（1856年）の岸和田型地車（新調大北町推定）を大切に保存し、祭りを行っている。

岸和田の地車はフルスピードで曲がる「遣り回し」で有名だが、江戸期における地車祭礼時に城主にみせる、いわゆる岸和田城の城門をくぐる「城入り」することを可能にすべく考案されたのが、屋根の上げ下げが出来る、からくり地車だった。特徴として大屋根を下げその際に小屋根を後方にずらす「摺出鼻」が後方についている。この大屋根の四本柱に万力を仕掛けたからくりは、旧城下町の地車でしか見ることの出来ない様式である。また岸和田城主岡部藩の極印（きわめいん）である「岸極」の焼き印が数ヶ所残っているほか、今まで古文書のなかでしか確認できなかった焼き印が数ヶ所発見された。極印とは、地車を製作する際に奉行所役人の検閲を受けたことの承認印である。

岸和田型下地車は、からくりのため丸柱が内側に入り腰のくびれた美しいフォルムになっている。この城門をくぐるために考え出されたからくりの工法は、当時の岸和田大工の腕の冴えと発想の豊かさと工夫、そして洗練された建築様式から成り立っている。

それによって可能な「遣り回し」が決定的に人々を魅了している。

（大久保昌俊）